

ストーリー

巨大な化石や女神像そして名画まで、珠玉のコレクションで展覧会を開催し、誰よりも多く来場者を獲得しましょう！

同梱物



A. 展示カード（3色x10枚、合計30枚）

- ・ ① 勝利点／②配置条件／③効果や得点条件など
- ・ 赤：自然史・古生物
- ・ 青：古代ギリシャ～ローマ
- ・ 橙：ルネッサンス

B. 山札カウントカード（x1）

C. スタートプレイヤーカード（x1）



ゲームの準備

① 山札の用意

展示カード（3色・各10枚。合計30枚）をよく混ぜ裏向きで山札とします。この時、山札カウントカードの上に「1」の数字が見えるように山札を置きます。

② 捨札置き場

山札の周囲に、捨札を置くスペースを確保します

③ スタートプレイヤー決定

任意の方法でスタートプレイヤーを決め、スタートプレイヤーカードを受け取ります。

1. ゲームの遊び方

プレイヤーは博物館の学芸員として、展示カードを自分の前に並べ展覧会を開催します。ゲーム終了時、最も来場者（勝利点）を得たプレイヤーがゲームに勝利します。

スタートプレイヤーから時計回りで順に手番を行っていき、「誰かが8枚以上展示カードを配置する」または「山札が3回終わる」時、ゲームは終了へと向かいます。

2. 手番で行うこと

① 山札から「3枚」手札に加える

② カードを展示する（任意）

手札から展示したいカードを選び、配置ルール（後述）に従ってプレイヤーの前に配置します。配置ルールに従う限り、何枚でもカードを配置することができます。

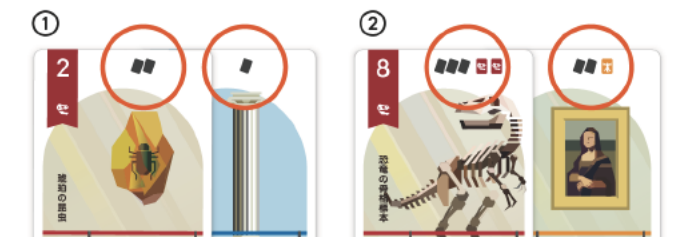
③ 手番の終了

手札から配置したいカードを配置し終わったら手番を終えて、次のプレイヤーへ手番が移ります。

この時、**手札の持ち越しは1枚まで**です。それ以上の場合は、手札が1枚になるように捨て札にする必要があります。

3. 展示カードの配置ルール

カードを配置するには、展示カード上部に書かれた配置条件を満たす必要があります。



① 必要な枚数をコストとして捨札にする

カード上部に描かれた「**黒いカードの枚数**」だけ手札を捨て札にして、展示カードを配置します。

コストは、1枚を捨てる必要があるコスト1から、3枚を捨て札にしなければいけないコスト3まであります。

② コスト3やコスト2の特殊なカード

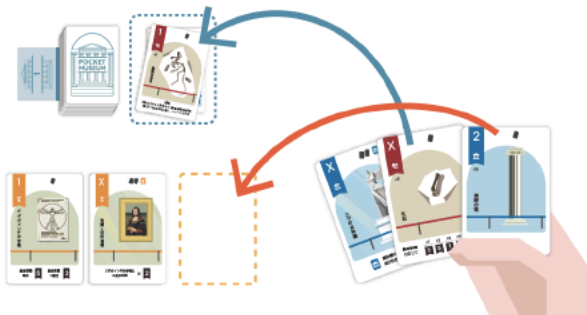
多くの来場者が期待できるコスト3や2のカードには、手札を捨てるだけでなく、**同分野のカードが先に何枚か（1枚か2枚）展示されている必要があるカード**もあります。

自分の展示スペースに、すでに必要な枚数の同分野のカードが展示されていない場合は、そのカードを展示することはできません。

カード配置の例

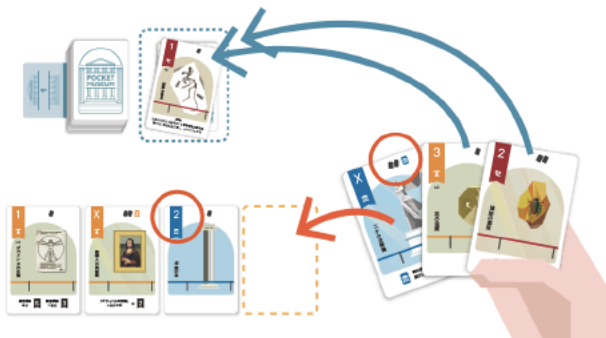
配置例①：コスト 1・必要な同分野カードなし

手札からコスト 1 の「神殿の柱」を展示することになりました。手札からコストとして「化石」を捨て札とし、自分の前に「神殿の柱」を配置します。



配置例②：コスト 2・必要な同分野カード 1

手札からコスト 2 「ニケの女神像」を配置します。すでに「神殿の柱」を 1 枚配置済みなので、ニケの女神像の配置条件である同分野のカード 1 枚の配置はクリアしています。コストとして『琥珀の昆虫』『花の金貨』を捨て札にし、自分の前に「ニケの女神像」を配置します。

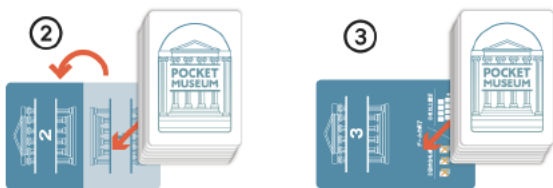


4. 途中で山札が終わったら？

捨札をよく混ぜ、新たな山札とします。

この時、山札の枯れた回数分かるように、今度は「2」の数字が見えるように山札を置きます。

山札の 2 周目が終わったら、山札カウントカードを裏返し、3 回目であることが分かるように新たな山札を置き、終了条件について確認しましょう。



5. ゲームの終了

「誰かが 8 枚以上、展示カードを配置する」もしくは「山札が 3 回終わる」となったら、ゲームは終了へと向かいます。

全員がスタートプレイヤーと同じ手番数になるまで続け、ゲームは終了します。途中、山札が終わった場合には、新たな山札を用意して、手番数が同じになるまで続けます。

手番終了の例：

3 人プレイで 2 人目のプレイヤーの手番中に 3 回目の山札が終了しました。捨札から新たな山札を用意し、2 人目のプレイヤーと 3 人目のプレイヤーの手番を終え、全員が同じ手番数になったのでゲームを終了します。

6. 得点計算と勝敗

「配置した展示カードの勝利点」

「各カードのボーナス」



を合計し、最も多く勝利点を得たプレイヤーが勝利します。

同点のプレイヤーがいた時は、仲良く勝利を分かち合いましょう。

7. カードの種類と特徴

コスト 3 のカード



- ・ 高得点が狙えるカードです。
- ・ コストとして手札を 3 枚捨てる必要があり、事前に同分野のカードを 2 枚先に展示しておく必要があります。

勝利点が「X」のカード



- ・ 勝利点が最終的な展示カードに応じて変わります。

条件達成でボーナスがつくカード



- ・ カード左上に記載された基本点に加えて、カード下部に書かれた条件に応じてボーナスを得ることができます。

特殊効果のあるカード



特殊な効果を使うことができるカードです。

（即座）と書かれているカードは、配置した時に効果を使用します。効果を使用しないことも可能ですが、あとで効果を使用することはできません。

（永続）と書かれているカードは、配置以後、毎手番効果を利用することができます。

カードの効果を上手に利用しましょう。

勝利点が「X」のカードの補足

勝利点が最終的な展示カードに応じて変わります。



「大型の化石標本」と「ニケの女神像」

- ・「同分野の展示枚数」とは、そのカードを含む、指定分野のカード枚数が点数になります。
- ・配置するまでに、同分野のカードを1枚先に展示しておく必要があります。



「貴婦人の自画像」

- ・自分が展示した「ダヴィンチの手稿」の枚数x2が点数になります。
- ・配置するまでに、同分野のカードを1枚先に展示しておく必要があります。



「化石」

- ・展示した同カードの枚数に応じた得点を獲得します。
- ・得られる得点は、カード1枚の勝利点ではなく、展示した「化石」全部での勝利点となります。

ボーナスのつくカードの補足

カード左上に書かれた勝利点に加えて、カード下部の条件を満たすことで、追加のボーナス勝利点が得られます。



化石の昆虫

- ・基本点は2、それに加えて「化石」の展示枚数分の勝利点を得る



ダヴィンチの手稿

- ・最も多くダヴィンチの手稿を持っていた人が+5点、2番目に持っていた人が+3点をボーナスとして得ます。
- ・展示数が同率の時、その全員がボーナスを得ます。

- ・同率1位が複数名の時は、1位の全員が1位のボーナスを獲得し、他の人は2位のボーナスを得ることはできません。
- ・1位が1名で2位が複数名の時は、2位の全員がボーナスを得ることができます。
- ・このカードを配置していない人は、ボーナスの勝利点を得ることはできません。

特殊効果があるカードの補足



自然史・古生物 | 貴重な発見

- ・2枚上からめくり、任意の1枚を手札に加え、残りの1枚を山札の上に戻します。その後、山札はシャッフルします。
- ・(即座)：カードを配置した時に効果を使用します。



ルネッサンス | 人類の創造

- ・山札からカード2枚をドローし、手札に加える。
- ・(即座)：カードを配置した時に効果を使用します。



古代ギリシャ | 最古の厩計算機

- ・手番のはじめに手札の補充を行う際、通常の3枚に加えてもう1枚多くドローし、その中から1枚不要なカードを選び、山札の上に戻す（その後、山札はシャッフルします）
- ・(永続)：カードの効果は、配置以降、毎手番使用可能です。

上記3つのカードでは、

- ・任意で効果を使用しないことも可能です。
- ・途中、山札が尽きた場合は、捨札から山札を補充します。
- ・3回目の山札終了後でも新たに山札を作り補充を行います。



古代ギリシャ | 黒絵式の壺

- ・次の手番へ持ち越せる手札の上限を+1枚します（重複可能）。
- ・同名のカードを2枚展示している場合はさらに+1枚され、合計3枚まで持ち越せるようになります。
- ・(永続)：カードの効果は、配置以降、毎手番使用可能です。